

平成 24 年度教職大学院派遣研修研究報告書

研修生番号	管 2 4 K 1 0	氏 名	各務 美紀
研究主題 —副主題—	ホリスティックなアプローチで音楽を生かした教育実践の研究 —横断的に音楽を活用させた授業提案—		
所属校	西東京市立東伏見小学校	派遣先	東京学芸大学教職大学院

項 目	内 容
I 研究の目的	<p>小学校の音楽専科になることを希望していたが、小学校全科として採用になり、特別支援学級や通常学級の担任としての実践を積んできた。その中で日々の学級経営や各教科の学習指導に音楽を生かした実践に取り組んできた。主に国語、算数、体育、道徳の実践の中で歌や音楽の力を改めて実感する場面に多く出会ってきた。このことから、音楽とは知育・徳育・体育にも横断的・総合的に関わらせていくことができるものではなかろうかと考えた。</p> <p>教職大学院入学後は、音楽を他の教科・領域にも役立てる研究がしたいと考えていたところ、「ホリスティック教育」という言葉に出会った。</p> <p>「ホリスティック教育」とは各教科で学んだことを繋ぐことによって確実な力として身に付けていくという全人的な教育の考え方である。平成 23 年度から本格実施が始まった今回の学習指導要領改訂は「ゆとり教育」の反省を踏まえたものと言われていて、学力向上を視野に入れた様々な教育施策が考えられている。ホリスティック教育は「学力」か「ゆとり」か、二項を対立させるのではなく包括する全人的な教育を目指す考え方である。</p> <p>また、小学校学習指導要領解説音楽編にも「学校教育において児童の全人的な育成を担う音楽科の役割について基本理念を変えていない」と記されている。</p> <p>以上のことから、音楽活動を媒介することで、児童たちの学力向上や体力向上、そして心の教育に繋がるための学習意欲を高める音楽の効果について明らかにし、音楽を活用した授業実践を提案することを本研究の目的とした。</p>
II 研究の方法	<p>1 実践史の整理及び考察</p> <p>音楽を活用して学級経営、学習指導、生活指導を行ってきた実践史を整理し、当該教科・領域にどのような学習効果や教育効果があったのかを考察した。また、それらを分析し、どのような場合において、その効果がより高かったのかを考察した。</p> <p>2 先行研究の整理</p> <p>先行研究の整理の中で、音楽を音楽以外の教科や領域の学習活動に活用させた実践例を扱った先行研究の整理をした。教科としての音楽の枠組みにとらわれずに、学校生活全般にわたる各場面で音楽を活用した取組を行った経過と、それに伴う子供の心身の発達についてまとめた研究の分析をした。それによって「音楽を活用した取組」の有用性について明らかにすることができた。</p> <p>3 検証授業</p> <p>(1) 音楽の効果をねらった学習指導の実践</p> <p>対象：小学校第 2 学年 87 名 実施時期：9 月 13 日～24 日</p> <p>教科・単元：算数科「繰り下がりの引き算」(全 8 時間扱い)</p>

	<p>検証方法：繰り下がりの手順を歌で覚えるという方法での検証 (2) 事前と事後の変容を実態調査と児童アンケート、児童の感想及び担任インタビューから分析</p>
<p>III 研究の結果</p>	<p>1 算数科における児童の実態調査から</p> <ul style="list-style-type: none"> ・算数科「繰り下がりの引き算」の正答数については、事前調査の正答数を事後調査の正答数が上回っている。従って算数の「技能」の観点において今回の授業が成果をもたらしたと考えられる。 ・問題が全部終わったら行う作問の数についても、事前調査より事後調査の方が大きく上回った。このことから、児童たちが繰り下がりの引き算に自信をつけて、多くの問題を作ったり解いたりする意欲にも結びついていることが分かる。従って、算数の「関心・意欲・態度」の観点にも今回の授業が成果をもたらしたと考えられる。 <p>2 アンケート調査の分析から</p> <ul style="list-style-type: none"> ・事前調査に比べて事後調査は「得意」と答えている児童が増え、「苦手」と答えている児童が減った。「どちらでもない」と答えている児童がアンケート自由記述欄に書いていることの中で「ちょっとだけ、さんすうにきょうみをもった。」というように、情意面での向上が見られる記述もあった。 ・事前調査に比べて、事後調査での変容見ると、「好き」と答えている児童が増え、「嫌い」と答えている児童が減っていた。視点を変えると「好き」と答えている児童が事前調査では約5割だったのが、事後調査では約7割に上昇、「嫌い」と答えている児童が事前調査では約2割だったのが、事後調査では約1割5分に減少していた。「どちらでもない」と答えている児童がアンケート自由記述欄に書いていることはプラス思考の記述ばかりで、マイナス思考の記述が1人もいなかったことは特筆できる。 <p>3 アンケートの自由記述から</p> <ul style="list-style-type: none"> ・自由記述からは、情意面での変容が読み取れる。事後アンケートでは「いっばいやったからすきになりました。」とか「すきになりました。うれしいです。」といったコメントも寄せられていた。一方、「苦手」「嫌い」と答えた児童の自由記述には、前よりも苦手になったり、嫌いになったりしたという記述はなかった。 ・事後アンケートのみに見られる記述としては、「引き算の歌」に関する内容についてのコメントが多かったことが特筆できる。ここでも「得意」や「好き」と答えた児童の自由記述からは多くの歌に関連するコメントが見られたが、「苦手」「嫌い」と答えた児童の自由記述からは、歌のせいで苦手になったり、嫌いになったりしたという記述はなかった。
<p>IV 考察</p>	<p>検証授業では算数の学習において音楽活動が技能面と情意面の双方に効果をもたらすということが明らかになった。先行研究で明らかになったことも含め、本研究では音楽活動が教科としての音楽科の役割のみでなく、知・徳・体のあらゆる分野に総合的・包括的につまりホリスティックにアプローチでき、音楽を媒介した全人格の発達を目指すものとして取り組んでいける可能性をもっているものであると纏められる。そして音楽の効果で学習意欲を高め、学習活動の促進の一助となることに繋がっていくと考えられる。</p>